

<b>報道記者発表資料</b>  <b>朝 来 市</b>	提出日	令和7年1月8日
	問合せ先	担当部署：まちづくり協働部市民協働課
		電話：079-672-1492
担当者	課長：足立 高光	
	担当：橋本 大地、足立 良太	
件名	<近畿エリア1位> 宝島社「田舎暮らしの本」2月号 「2025年版住みたい田舎ベストランキング」の結果が発表されました。	
<p>宝島社『田舎暮らしの本』2月号、「2025年版住みたい田舎ベストランキング」において、朝来市の順位は以下のとおりとなりましたので、報告いたします。</p> <p><b>1 「人口1万人以上3万人未満のまち」の部（自治体数：154）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合部門 全国第3位（昨年：5位）</li> <li>・シニア世代が住みたいまち 全国第3位（昨年：4位）</li> <li>・若者世代・単身者が住みたいまち 全国第7位（昨年：5位）</li> <li>・子育て世代が住みたいまち 全国第12位（昨年：7位）</li> </ul> <p><b>2 エリア別（近畿地方、参加自治体数：52）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合部門 第1位（昨年：2位）</li> <li>・シニア世代が住みたいまち 第1位（昨年：2位）</li> <li>・若者世代・単身者が住みたいまち 第3位（昨年：3位）</li> <li>・子育て世代が住みたいまち 第6位（昨年：6位）</li> </ul> <p>※近畿地方の総合部門については、養父市が第5位、豊岡市が第3位となっており、但馬地域の3市が上位にランクインしました。</p>		

2025年版  
第13回

# 住みたい田舎 ベストランキング

## 人口 1万人以上3万人未満の まちランキング 回答自治体154

### 4部門ランキング発表!

※アンケート項目、点数の出し方はP28~31をご覧ください。  
※順位は点数順です。ここでは小数第3位以下を切り捨てて表示しています。

#### シニア世代 部門

1位	大分県 豊後高田市	40.53点
2位	大分県 杵築市	37.88点
3位	兵庫県 朝来市	37.79点
4位	長野県 飯山市	37.05点
5位	兵庫県 相生市	36.96点
6位	岐阜県 飛騨市	36.19点
7位	鳥取県 琴浦町	36.10点
8位	千葉県 多古町	35.72点
9位	岡山県 高梁市	35.54点
10位	茨城県 境町	35.21点
11位	兵庫県 養父市	35.07点
12位	長野県 大町市	34.37点
13位	奈良県 宇陀市	32.82点
14位	長野県 飯綱町	32.66点
15位	高知県 安芸市	32.58点
16位	長野県 御代田町	32.41点
17位	大分県 竹田市	32.12点
18位	高知県 四万十町	32.03点
19位	山形県 尾花沢市	31.99点
20位	宮崎県 えびの市	31.78点

#### 子育て世代 部門

1位	大分県 豊後高田市	96.42点
2位	茨城県 境町	83.79点
3位	岐阜県 飛騨市	75.79点
4位	鳥取県 琴浦町	75.69点
5位	兵庫県 養父市	73.70点
6位	長野県 飯山市	71.18点
7位	大分県 杵築市	67.71点
8位	兵庫県 相生市	66.67点
9位	山形県 村山市	66.23点
10位	岡山県 高梁市	65.14点
11位	千葉県 多古町	64.83点
12位	兵庫県 朝来市	64.52点
13位	鳥取県 北栄町	64.26点
14位	山形県 尾花沢市	62.19点
15位	大分県 国東市	62.13点
16位	岡山県 吉備中央町	61.81点
17位	福井県 大野市	61.66点
18位	秋田県 北秋田市	61.42点
19位	長野県 松川町	61.24点
20位	鹿児島県 西之表市	61.16点

#### 若者世代・単身者 部門

1位	大分県 豊後高田市	53.99点
2位	茨城県 境町	48.42点
3位	鳥取県 琴浦町	48.05点
4位	岐阜県 飛騨市	45.35点
5位	兵庫県 養父市	44.33点
6位	秋田県 にかほ市	40.51点
7位	兵庫県 朝来市	39.83点
8位	大分県 国東市	39.48点
9位	長野県 飯山市	39.36点
10位	高知県 四万十町	37.20点
11位	大分県 杵築市	37.18点
12位	福岡県 豊前市	36.90点
13位	鳥取県 北栄町	36.40点
14位	高知県 室戸市	34.65点
15位	岡山県 新見市	33.83点
16位	長野県 辰野町	33.29点
17位	岩手県 陸前高田市	33.02点
18位	秋田県 鹿角市	32.73点
19位	兵庫県 香美町	32.35点
20位	山形県 村山市	32.32点

#### 総合 部門

1位	大分県 豊後高田市	134.75点
2位	鳥取県 琴浦町	112.77点
3位	兵庫県 朝来市	111.92点
4位	長野県 飯山市	109.50点
5位	秋田県 にかほ市	108.21点
6位	長野県 大町市	106.65点
7位	大分県 杵築市	106.59点
8位	茨城県 境町	106.10点
9位	京都府 南丹市	105.81点
10位	岐阜県 飛騨市	105.25点
11位	岡山県 高梁市	105.02点
12位	兵庫県 養父市	104.37点
13位	大分県 国東市	101.39点
14位	鳥取県 湯梨浜町	99.97点
15位	山形県 遊佐町	99.45点
16位	奈良県 宇陀市	98.66点
17位	山形県 尾花沢市	98.22点
18位	鳥取県 北栄町	97.17点
19位	大分県 竹田市	97.12点
20位	高知県 四万十町	97.04点

#### 傾向と 分析

#### 最激戦グループで豊後高田市が全部門1位をキープ

回答自治体数は154と飛び抜けて多い。平成の大合併が影響しているとはいえ、地方ではこのくらいの人口規模が標準になっているようだ。トップ10は東北から九州までバラツキがあり、全国に分散している傾向が見て取れる。総合部門1位は本ランキングで1位を継続してきた大分県豊後高田市で、移住・定住支援の充実ぶりは群を抜いている。2位の鳥取県琴浦町も上位を維持。官民一体となった手厚い移住支援が魅力だ。3位の兵庫県朝来市は体験住宅が充実しており、関西で田舎暮らしをしたい人たちに注目されている。

12エリア別  
住みたい田舎ランキング

Area **8**

参加自治体数52



**近畿**エリア  
Kinki Area

**シニア世代部門**

1	兵庫県 朝来市	37.79点
2	兵庫県 相生市	36.96点
3	兵庫県 南あわじ市	36.27点
4	京都府 舞鶴市	35.11点
5	兵庫県 養父市	35.07点
6	兵庫県 三木市	33.88点
7	滋賀県 大津市	33.80点
8	兵庫県 赤穂市	33.63点
9	兵庫県 丹波篠山市	33.20点
10	京都府 綾部市	33.00点

**子育て世代部門**

1	京都府 舞鶴市	75.76点
2	兵庫県 養父市	73.70点
3	兵庫県 豊岡市	71.67点
4	兵庫県 丹波市	68.31点
5	兵庫県 相生市	66.67点
6	兵庫県 朝来市	64.52点
7	兵庫県 南あわじ市	64.08点
8	奈良県 宇陀市	60.64点
9	兵庫県 丹波篠山市	60.02点
10	兵庫県 姫路市	59.83点

**若者世代・単身者部門**

1	兵庫県 豊岡市	46.10点
2	兵庫県 養父市	44.33点
3	兵庫県 朝来市	39.83点
4	兵庫県 南あわじ市	37.93点
5	兵庫県 丹波篠山市	36.85点
6	兵庫県 丹波市	33.63点
7	兵庫県 淡路市	33.59点
8	奈良県 下北山村	33.15点
9	兵庫県 洲本市	32.52点
10	兵庫県 香美町	32.35点

**総合部門**

1	兵庫県 朝来市	111.92点
2	京都府 南丹市	105.81点
3	兵庫県 豊岡市	104.60点
4	兵庫県 丹波市	104.51点
5	兵庫県 養父市	104.37点
6	兵庫県 南あわじ市	103.92点
7	兵庫県 丹波篠山市	103.72点
8	京都府 舞鶴市	102.35点
9	奈良県 宇陀市	98.66点
10	京都府 綾部市	98.12点

**ここがPoint!**

近畿エリアは、今回、10位以内に新しい自治体が多く入ってきて、混戦の状況。各部門で1位となったのは、兵庫県朝来市、豊岡市、京都府舞鶴市。滋賀県大津市、兵庫県赤穂市、三木市、丹波市、淡路市、奈良県宇陀市、下北山村が新たに10位以内に入ってきた。また、昨年よりランクアップしている兵庫県南丹市、南あわじ市も興味深い。

**Column**

**田舎で仕事を求める人の  
選択肢と、移住・就業  
しても失敗しない  
ためのポイント**

田舎暮らしを始める若者世代には、住まいが先か、仕事か先かという問題がある。結論を先にいえば、仕事を優先すべき。というのも、地方の仕事には適性があり、誰でも簡単に見つかるわけではないからだ。田舎の仕事は農業、林業、漁業の第一次産業ばかりと思われがちだが、加工にかかわる製造業や建築業などの第二次産業、流通・販売など目に見えないサービスや情報の生産を行う第三次産業と多岐にわたる。

重要なポイントは、就職して働くのか、独立して自営を目指すのか、はっきりさせておくこと。例えば、農業なら農業生産法人に勤める人もいれば新規就農する人もいる。林業でも森林組合に勤める人もいれば、自伐型林業で独立する人もいる。漁業でも水産会社に勤める人もいれば、自分の船を持って漁師になる人もいる。第二次産業と第三次産業は企業に勤める人がほとんどだが、そこでキャリアを積んで独立するケースも珍しくない。

移住に先立ち、自分がどうしたいのかをしっかりと考えておこう。

**漁業就業に関する相談会や  
セミナーが多い自治体**

※2024年度に漁業就業に関する相談会やセミナーを開催(に出展)した数(オンライン開催および開催予定を含む)

漁業就業の相談会(回)		
1	大分県 豊後高田市	11
2	愛媛県 西条市	10
2	愛媛県 今治市	10
4	宮城県 気仙沼市	6
4	兵庫県 南あわじ市	6

**ここがPoint!**

漁業に関心を持つ若者が増えているが、その政策に力を入れている自治体はそれほど多くはない。一方で、漁業者の人手不足が進んでおり、その解消は大きな課題。海に面した自治体が多い西日本で回数が多いようだ。



**林業就業に関する相談会や  
セミナーが多い自治体**

※2024年度に林業就業に関する相談会やセミナーを開催(に出展)した数(オンライン開催および開催予定を含む)

林業就業の相談会(回)		
1	宮城県 栗原市	11
2	愛媛県 西条市	10
2	愛媛県 今治市	10
2	大分県 豊後高田市	10
5	富山県 南砺市	9
6	秋田県 秋田市	8
6	福島県 田村市	8
6	愛媛県 松野町	8
9	大分県 日田市	7
10	北海道 下川町	6
10	宮城県 気仙沼市	6
10	鳥取県 鳥取市	6
10	鳥取県 日南町	6

**ここがPoint!**

林業も第一次産業の1つだが、相談会やセミナーを実施している自治体の多くは地方都市。平成の大合併も影響しているが、林業は地場産業として定着していないと成立しないので、実績のある自治体を選ぶべき。